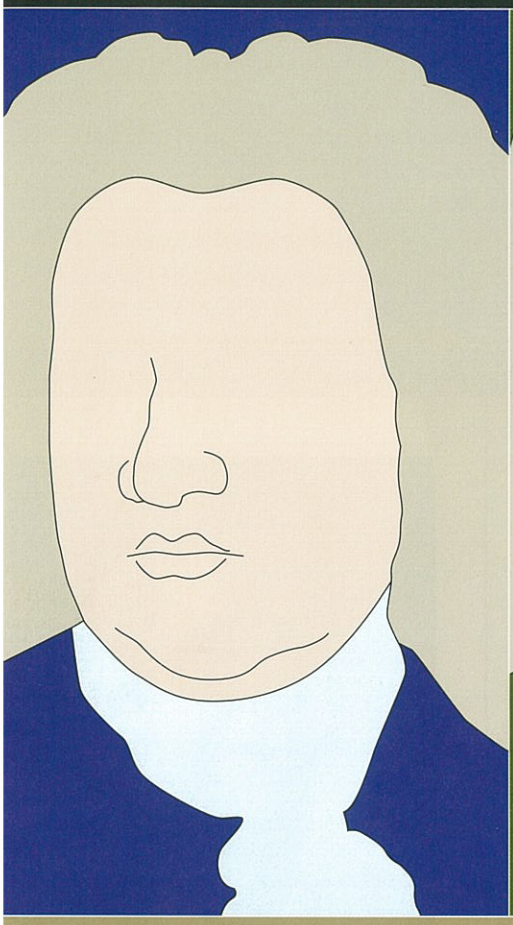
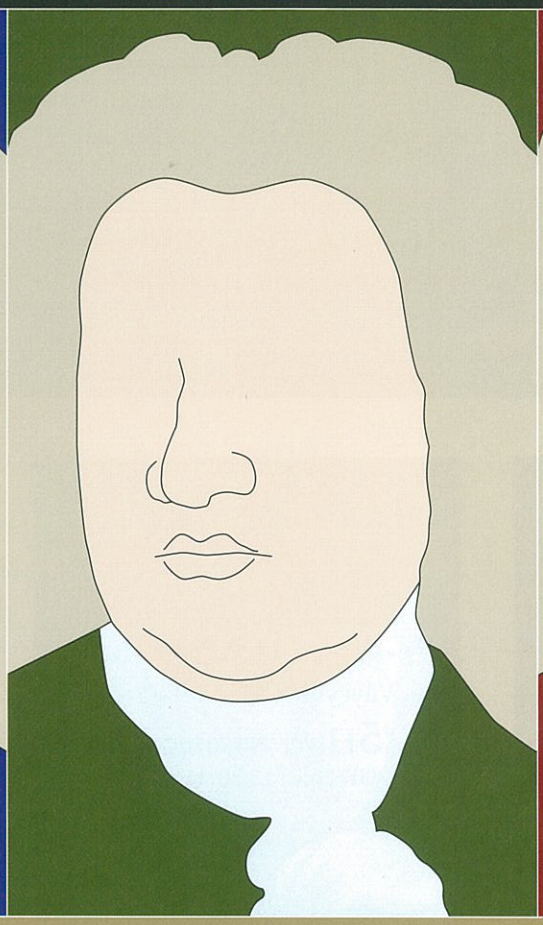
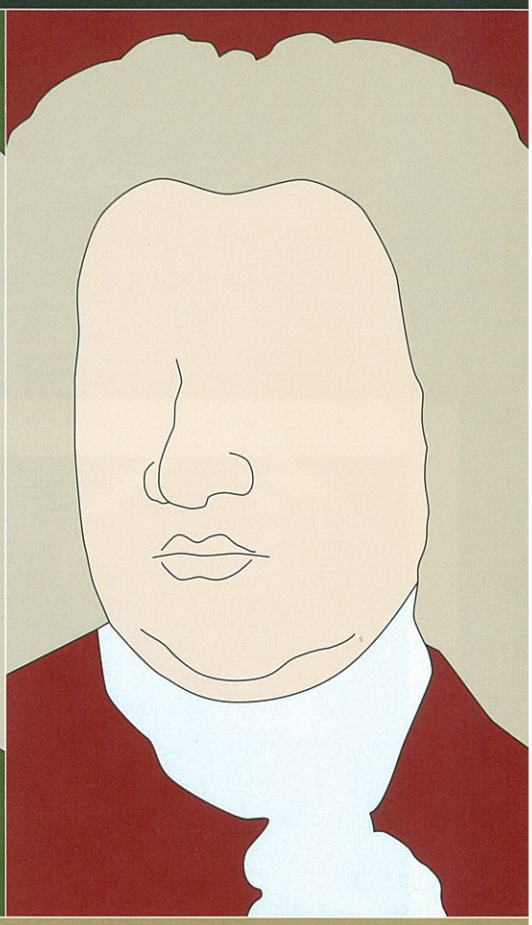
トリフォニーホール《ゴルトベルク変奏曲》2007

Triphony Hall "Goldberg Variations" 2007

2007年、《ゴルトベルク変奏曲》は、さらに３つのヴァリエーション。







J. S. バッハ／ゴルトベルク変奏曲 BWV988
Johann Sebastian Bach／Goldberg Variations BWV988

ゴルトベルクで アコーディオンをぶっ壊す	ステンドグラスから洩れる光が ゴルトベルクに舞い降りる	鍵盤に火がつきそうな ロマンティック・ゴルトベルク
ミカ・ヴァユリネン （アコーディオン） Mika Väyrynen, Accordion	フランク・フォルケ （パイプオルガン） Frank Volke, Pipeorgan	シモーネ・ペドローニ （ピアノ） Simone Pedroni, Piano
9月25日（火） 7時30分開演（7時開場） Sep 25, 2007 (Tue.) 19:30 start (19:00 open)	10月20日（土） 7時30分開演（7時開場） Oct 20, 2007 (Sat.) 19:30 start (19:00 open)	10月21日（日） 3時開演（2時30分開場） Oct 21, 2007 (Sun.) 15:00 start (14:30 open)

すみだトリフォニーホール
Sumida Triphony Hall

10TH ANNIVERSARY SUMIDA TRIPHONY HALL

一度きりの人生、それぞれのヴァリエーション

トリフォニーホール《ゴルトベルク変奏曲》2007に寄せて

青澤隆明

音楽について考える。音楽をめぐる人について、その人の旅について、思う。そしてぼくは聴く。ときどきこんな思いを巡らす。

――この時間はどこからやってきて、どこへ続いていくのだろう。そして、ぼくの旅は、他ならないあなたの旅と、どのようにすれ違ったり、交わったりしているのだろうか、と。

すみだトリフォニーホールが《ゴルトベルク変奏曲》を、さまざまな手によるヴァリエーションとして、その空間と時間に共鳴させていく。そんな話を聴いたとき、30変奏の旅になるのだろう、という途方な期待をたちまち愉快に抱かされた。

まず、マルティン・シュタットフェルトがドイツからやってきて、話題のデビューCDとはまた違うヴァリエーションを聴かせた。そして、一年が経ち、セルゲイ・シェプキンがこの春アメリカから訪れた。二人のピアニストはそれぞれの日本でのデビューをトリフォニーホールの《ゴルトベルク変奏曲》でやってのけた。あと30年くらいは平気な顔して生きていないといけないな、と思っていたら、秋には3つの異なる楽器でのヴァリエーションがラインナップされて、そこには耳なれない名前も含まれている。また新しい楽しみが増えた。

演奏家は多くの作品を旅していく。作品は多くの演奏家を旅していく。ふたつの旅が交わる地点で、それぞれの人生を生きる多くの聴きてがその旅を続けていく。いくつもの時間がいくえにも複雑に絡み合って、コンサートという特別な時が充ちてくる。そこに音楽が鳴り響く。たとえば、アリアと30の変奏が、永遠からやってきたかのように、それなのにいまここで生まれたかのような顔をして、ぼくやあなたの情深くに入っていく。いや、音楽が浸透してくるのではなく、ぼくたちがめいめいに歌い、あふれ出しているのだ。そう思うこともある。おそらくヴァリエーションはそれぞれの演奏家と聴きてのなかにある。ではアリアは?

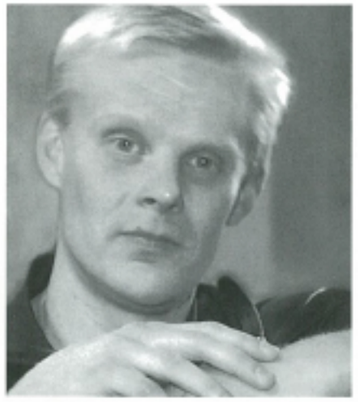
それよりも、まず秋の三者三様の演奏だ。ミカ・ヴァユリネンは1967年生まれ、フィンランドのシベリウス・アカデミーの誇る卒業生で、同世代のアコーディオン奏者のなかでも強い存在感をもって、日本にも欧米にも演奏旅行をしている。型破を併せもつアコーディオンの内的宇宙は、民衆の楽器としての記憶から小さなパイプオルガンとしてのコラールまで、多様な表現を響かせる。ヴァユリネンの冒険的な演奏は、重層的な響きと多彩な創意で、ゴルトベルクにまた独特の表情と動感を導き出していく。古典の編曲から同時代にいたる幅広いレパートリーを抱く鋭敏な感性が、ここに息づくだろう。

フランク・フォルケは1964年生まれのドイツのオルガニスト。デッッセルドルフ聖アンドレアス教会の音楽監督をレジデントで20年末務めていて、そのオルガンで弾いた《ゴルトベルク》のCDをMOTTETというレーベルから1998年に出した。ピアノやハープシコードで聴きなれた耳に、フォルケの弾くオルガンの多様な響きと質感のヴァリエーションは豊かな広がりのなかに驚きを運んでくる。ストップの選択にも奏者の個性が試されるし、それにパイプオルガンだといわゆる打鍵とはまた違った持続のなか、響きがさまざまな方角からきて聴く者を包みこむように、不思議と満ちてくる感覚がある。いつも他の楽器のゴルトベルクを真下に眺めていたトリフォニーホールのオルガンがようやく歌い出すかと思うと、やはり楽しい気持ちになってくる。

イタリアのピアニスト、シモーネ・ペドローニは、ミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院と、近年躍進の目覚しいイモラ音楽院に学んだ。2001年に2枚組でリリースされたディスクは、甘美な音色で流麗に歌い上げる温かく豊潤さな魅力に充ちている。"ピアノの神秘家"と称されているらしく、ゴルトベルク変奏曲を「聖三位一体の讃美歌」と読み解き、各変奏に標題までも提案してみせる。彼によれば、回帰するアリアは、「宇宙を抱擁するただひとつの愛。あなたには静寂と崇敬がふさわしい」ということになる。いずれにせよ、たっぷりとした慈愛のまなざしが、ペドローニの演奏に通っていることは確かだ。

さて、おしまいに、もういちどアリアを――。2006年春、演奏後に姿をみせたシュタットフェルトに、30年経ったらまたここでゴルトベルクを弾いてくださいね、とぼくは話しかけた。彼はされいに笑ったけれど、それはちょっとしたいたずらみたいなものだ。アリアは作品そのものであり、あるいはトリフォニーホールという空間じたいであり、もっと言えば、ぼくやあなた自身のことなのかも知れない。そんなことも、いろいろ、考える。演奏も一度きりなら、演奏を聴くそのときも一度きりだ。それを美しいと思えるから、ぼくたちはコンサートを、大切に聴きに出かける。たとえば、こんなにふうにして――。

（あおさわ たかあきら／音楽評論）



ゴルトベルクで アコーディオンをぶっ壊す

ミカ・ヴァユリネン（アコーディオン）
Mika Väyrynen, Accordion

9月25日（火） 7時30分開演（7時開場）
Sep 25, 2007 (Tue.) 19:30 start (19:00 open)

ヴァユリネンによるアコーディオン編曲版は、この曲の演奏者が直面する根本的な問題のひとつを瞬時に解決した。変奏曲たちを彼らが生まれた2段鍵盤の世界に戻してやったのだ。アコーディオン特有の、ひとつの音を自在に伸ばしたり、途中で音量を変えたり、音栓でより広がる可能性は、名手の手にかかれば、計り知れない程深淵な作品に新たな展望をひらく手段となるのだ。

PROFILE

1967年フィンランド・ヘルシンキ生まれ。1997年にシベリウス音楽院で博士号を得た最初のアコーディオン奏者のひとり。同世代の中では最も多忙なアコーディオン奏者であるヴァユリネンは驚異的なレパートリーを持ち、現代曲、協奏曲、古典の編曲もの、室内楽、タンゴ、と網羅的だ。ヨーロッパ、ロシア、アジア、アメリカと世界各地で活躍している。また、多くの作曲家と共同作業を行っており、アコーディオンという楽器の可能性を切り開く、最先端のアーティストである。
ホームページ http://accordions.com/mika/

バッハ／ゴルトベルク変奏曲
キングインターナショナル ABCD191

非常に優れた技巧（第5変奏の鮮やかなこと!）、思わず聞き惚れてしまう音楽性（第14変奏の溢る美感の素晴らしいこと!）が結実、ほかのどの楽器でも聴けなかった新鮮ゴルトベルクがここにあります。
（2003年録音）

ステンドグラスから洩れる光が ゴルトベルクに舞い降りる

フランク・フォルケ（パイプオルガン）
Frank Volke, Pipeorgan

10月20日（土） 7時30分開演（7時開場）
Oct 20, 2007 (Sat.) 19:30 start (19:00 open)

オルガンの多種多様の音色は、個々の変奏曲の複雑さを正当に評価することを可能にする。ペダルにより奏者が第3のしかも独特の音色を出すことが可能だからだ。オルガンはその機構上、ピアノに比べて音色の多様性に優れているため、聴く者がこの作品をよりはっきりと理解するのにきわめて有用だ。音栓の選択が奏者に委ねられていることにより、この作品がオルガンで演奏される際の解釈はユニークかつ主観的なものになる。

PROFILE

1964年ドイツ生まれ。ドイツ・エッセンのフォルクガング音楽大学より教会音楽のディプロマを、また、ハンブルク音楽芸術大学よりピアノ演奏の学位を得ている。プラハの春国際オルガン・コンクールをはじめ、いくつかの国際コンクールでの入賞歴を持つ。1985年以来、デッッセルドルフ聖アンドレアス教会の音楽監督をつとめている。

バッハ／ゴルトベルク変奏曲
MOTETTECD12571

1985年来、デッッセルドルフ聖アンドレアス教会の音楽監督。淡々としつつも穏やかな流麗な演奏で、じつにバッハらしいオルガン版ゴルトベルク。変曲自体の音を良く見せてくれる、教会の空間を感じさせる録音も素晴らしい。
（1998年録音）

鍵盤に火がつきそうな ロマンティック・ゴルトベルク

シモーネ・ペドローニ（ピアノ）
Simone Pedroni, Piano

10月21日（日） 3時開演（2時30分開場）
Oct 21, 2007 (Sun.) 15:00 start (14:30 open)

バッハの言葉には超越的な愛が浸み込んでいる。そしてそれは、究極の美一神そのものにも一致する一の領域まで魂を高める役割を担わせるべく、音楽に霊感を与えている。ゴルトベルク変奏曲もその例外ではない。実際、大胆な構造を持つこの作品は器楽音楽の傑作で、バッハの音楽の神秘性を最もよく表現している。「変奏曲」というシンプルで慎ましやかな名前の裏には、聖三位一体の厳かで燃えるような崇拝だけでなく、不朽に調和した芸術作品がかくされている。

PROFILE

イタリア、ノヴァラ生まれ。ミラノ・ヴェルディ音楽院とイモラ音楽院に学び、ラザール・ベルマン、フランコ・スカラ、ピエロ・ラッタリーノに師事。ルービンシュタイン国際コンクール第2位、ノルウェー・ソニア王妃国際コンクール第1位、1993年クライバーン国際コンクール金メダル獲得。「ピアノの神秘家」と評される得異な感性の持ち主で、バッハ「ゴルトベルク変奏曲」のスペシャリストとしては、「ルービンシュタインとショパン、ラローチャとアルベニスの組み合わせに匹敵する」（エル・ムンド）等、各紙で絶賛を博している。
ホームページ http://www.simonepedroni.com/

バッハ／ゴルトベルク変奏曲
La Bottega Discantica 78/9

銘盤519915に名調律師ファビオ・アンジェレッティが同行、カンパリのふるさと、ノヴァラの名刹にロケーションを求め、スタインウェイが威信を賭けた名器。2度目が聞きたいという欲求をどうすることもできない。
（2001年録音）

料金［全席指定］

3公演セット券（10/20 レクチャー入場券付）― S¥8,400 A¥6,300（トリフォニークラブ会員はS¥7,200 A¥5,400、同時入会申込可）
各1回券 ― S¥4,000 A¥3,000（トリフォニークラブ会員は各10%引き、同時入会申込可）
※3公演セット券または各1回券をご購入の方を、10月20日（土）のレクチャー「ペドローニが語る《ゴルトベルク変奏曲》」にご招待いたします。（定員1,801名／事前申込制）

予約・お問合せ：トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212

「ゴルトベルク変奏曲は音楽の大いなる神秘である。」（シモーネ・ペドローニ）

J．S．バッハの音楽はしばしば三位一体の神秘性に基づいている。しかし、ここまで深く遠大な神秘性は後にも先にもゴルトベルクにおいてほかない。ゴルトベルクは一瞬たりとも単調になることのない、非常に複雑な芸術作品であるが、その音楽はバッハの寛大で奉仕的な精神から自然と湧き出てくるように見える。今日なお演奏者によって命を吹き込まれるたび、香りや祈りの言葉のように神の元まで届くたびにバッハの心は神聖な感動とともに脈打つのである。

ゴルトベルク変奏曲は音楽の大いなる神秘である。すべての人間に新しいことばを投げかけるその美しさは、作曲者の意図も、心の中に無限に広がる響きを言葉で表現しようとする我々の哀れな試みも凌駕している。

3公演セット券または各1回券をご購入の方をレクチャーにご招待！

レクチャー「ペドローニが語る《ゴルトベルク変奏曲》」

『聖三位一体をたたえる賛美歌としてのゴルトベルク』

10月20日（土）5時30分開始（5時15分開場）、6時30分終了予定

Oct 20, 2007 (Sat.) 17:30 start (17:15 open), 18:30 end

※このレクチャーは3公演セット券または各1回券をご購入の方のみご入場いただけます。（定員1,801名／事前申込制）

料　金［全席指定］

3公演セット券（10/20レクチャー入場券付）―――― S￥8,400　A￥6,300

（トリフォニークラブ会員はS￥7,200　A￥5,400、同時入会申込可）

各1回券―――― S￥4,000　A￥3,000

（トリフォニークラブ会員は各10%引き、同時入会申込可）

予約・お問合せ：トリフォニーホールチケットセンター　03-5608-1212

前売（1回券のみ）：チケットぴあ―――― 0570-02-9990

e+（イープラス）―――― http://eplus.co.jp

チケット・クラシック―――― 03-5447-3050

東京文化会館チケットサービス―――― 03-5815-5452

◎前売開始：6月24日（日）

主催・企画：すみだトリフォニーホール

協　　力：キングインターナショナル（9/25）

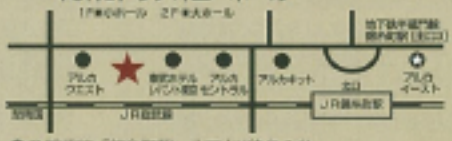
招聘制作：デュオ ジャパン（9/25&10/20）

日本交響楽協会（10/21）

※都合により公演内容の一部が変更となる場合がございます。

※未就学児のご入場はご遠慮下さい。

すみだトリフォニーホール



●JR総武線「錦糸町駅」北口より徒歩3分

●東京メトロ半蔵門線「錦糸町駅」3番出口より徒歩5分

Triphony Hall "Goldberg Variations"

これまでに行われた「トリフォニーホール《ゴルトベルク変奏曲》」シリーズ

世界がその才能に注目！
新鋭シュタットフェルトが放つ驚愕の《ゴルトベルク》

第1回 2006年3月9日 マルティン・シュタットフェルト（ピアノ）

シェプキン × 変奏（ヴァリエーション）＝∞

第2回 2007年3月2日 セルゲイ・シェプキン（ピアノ）